

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	・自分の考えや伝えたいことを明確にし、相手に伝わるように書き表す力 ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える力 ・構成や叙述に基づいて正確に読み取る力	・全国学力・学習状況調査の平均正答率は75%で、都・国の平均を上回った。しかし都・国の傾向と同様に「C 読むこと」の正答率が他の内容に比べ低い傾向にある。文章全体の構成を考えて要旨を捉えたり、表現したりすることに課題がある。	・口頭だけでなく、自分の考えをノートに文章で書くことを、今まで以上に授業に取り入れ、短文でまとめる力を付ける。 ・文章を書く前に、文章構成メモを書く習慣を身に付けさせるようにする。構成メモを活用し、自分の思いを表現することを意識させる。 ・目的を意識させ、文章と図表を結びつける等、必要な情報を見付けたり、要旨をまとめたりする指導を工夫する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	・社会的な見方・考え方を働かせ、社会生活について理解し、情報を適切に調べまとめる技能を身に付け、思考・判断・表現する力 ・主体的な問題解決の態度、公民としての資質の基礎を養う。	・学習に対する意欲は高いが、教科書・資料集・インターネット等の資料から集めた情報を整理・分析し、表現することに課題がある。	・グラフや図表の読み取り方など、教科書や資料集からどのように情報を集め読み取るかについての指導を計画的に行う。 ・調べたことをノートやスライドにまとめる（整理・分析）際には、社会的事象の意味や特色、つながりなどを考えさせ、自分の言葉で内容を短く要約し表現できるよう、指導の改善を図る。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	・基礎的・基本的な計算の仕方を見出し、既習の内容と結び付け統合的に考えたり、そのことを基に発展的に考えたりする力 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力 ・日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力	・全国学力・学習状況調査の平均正答率は72%で、すべての項目が都・国の平均を上回っている。しかし、図形領域の正答率が本校内の他領域と比較して低い。図形問題では、作図や角の大きさ、図を使った説明・記述などに課題が見られる。 ・基礎的な計算は正確に解ける児童が多いが、文章問題になると問われていることを正しく読み取れなかったり、答えの単位を間違えてしまったりする児童が多い。	・デジタル教科書等を活用して、図形領域の問題を視覚的に理解しやすくする。また、作図や図形の読み取り等を友達と交流しながら行い、思考過程を相手に伝えながら理解をできるようにする。 ・低学年から「なぜそう考えたか」を図や言葉で表現する場面をつくり、児童が自分の考えを構造的に整理し、言語化する力を育てる。 ・理科や社会等で、大きな数や折れ線グラフを扱う際には、算数で学習したことを振り返る等、教科横断的な指導を行う。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	・自然の事物・現象の差異点や共通点を基に問題を見出す力 ・既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力 ・予想や仮説を基に解決の方法を発想する力 ・実験・観察器具の使い方等、基本的な技能を身に付ける。	・全国学力・学習状況調査の平均正答率は63%とすべての項目が都・国の平均を上回っている。しかし、記述式で解答する問題が都・国の傾向と同様に課題がある。 ・差異点や共通点から疑問をもつことはできるが、自ら問題を見出すことに課題がある。 ・予想や仮説を立てる際に、既習事項や生活経験を基に、根拠をもって自分の言葉で説明することに課題がある。 ・観察実験の際、器具の扱いに不慣れな児童が多い。	・自然の事物、現象について、共通点や差異点から疑問をもったことを話し合う時間を確保し、意図的に生活経験や既習事項を想起させ、予想や仮説を根拠をもって自分の言葉で表現できるようにする。 ・学年の段階に応じて計画的に指導の時間を意識的に設定し、実験器具の扱いに慣れさせる。また、正しい実験器具の使い方を掲示し、確認できるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	・身近な人々や社会、自然に自ら働きかけ、その特徴やよさに気づき、自分自身や自分との生活で考え表現しようとする資質・能力を養う。 ・友達や異学年の児童、地域の方々等様々な立場の人と進んで関わろうとする。	・校庭が工事中のため、動植物との頻繁な関わりが実現できていない。今年度は、1年生で一人一パックの「マイ朝顔栽培」を行ったが、成長途中で家庭に持ち帰ったため、開花の喜びを自分ごととしてとらえることができなかった。 ・町探検を通して、自分たちの生活には様々な人が関わっていることを実感できたが、まとめる際、自分自身と結び付けて考え、表現することに課題が残った。	・年間4回芝公園を訪れ、様々な自然観察や季節の変化に気付かせる体験的な活動を通して、動植物への興味・関心を高める。昨今の気象状況を踏まえ、無理なく実施できるよう予定を組む。「マイ朝顔栽培」は今後も継続する。 ・年間2回の町探検を計画的に行う。そのためには、地域の方との事前の打ち合わせ、保護者との連携を密にする。まとめる際には、写真を効果的に活用し、「見たこと」「聞いたこと」だけではなく、そこから「考えたこと」「もっと知りたいこと」などもまとめるように指導する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	・音楽表現を考えて、表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見出しながら、音楽を味わって聴くことができるようにする。	・様々な音楽活動に興味をもち、意欲的に学習に向かう児童が多い一方で、演奏や歌唱の能力には個人差もあり、個別の支援を要する児童もいる。 ・聴き取ったことや感じ取ったことを全体に表現したり伝え合った	・主体的に学びに向かう姿を大切に、スモールステップで学習を進める。また、個人や複数など練習方法を選択できるようにし、自分の課題にじっくり向き合ったり、教え合ったりすることで、自信をもたせるようにする。また、音楽会を通して、演奏を聴き合い曲や演奏のよさなども見いだせるようにす

		りすることのできる児童が限られている。	る。 ・少人数で伝え合ったり、ICT 等の活用方法を工夫したりして、友達の考えにも触れ、自分の考えに自信をもたせる。
--	--	----------------------------	---

図工	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・材料や用具を使い、表し方等を工夫して、創造的につくったり、表したりする。 ・造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方等について考え、創造的に発想や構想をする。 ・作品から見方や感じ方を広げたり、深めたりする。 ・つくり出す喜びを味わうとともに豊かな情操を培う。	・主体的に取り組めない児童や早く完成させてしまう児童、授業時間内に完成できない児童等、個人差がある。 ・表したいことをどうやって表すか表し方を知るために、様々な材料や用具を使わせて創作活動を経験させる必要がある。	・創意工夫する時間を確保する。また、工夫して表せるように、表現方法に応じた材料や用具の活用の仕方を提案する。 ・今までの経験を生かした題材を設定し、資料を活用し、学年に応じた声掛けや説明により、取り組みやすいようにする。 ・鑑賞の活動を通して、自分や友達の作品や身近な美術作品に興味や関心をもつように、鑑賞や展示の仕方を工夫する。

家庭	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、自分たちの生活に活用する力	・裁縫は、既定の物の作成が終わると進んで他の物を作ろうとする姿が、調理では実習で学んだ内容を家庭でも実践する姿が見られた。 ・基礎的な技能が、時間の経過と共に曖昧になってしまうので、繰り返しの指導が必要となる。 ・意欲的に取り組む児童が多いが、授業内の学習だけで完結しているため、学習を家庭へとつなげられる児童が少ない。	・児童の意欲を大切に、学習したことを家庭で実践することを奨励し、周りに紹介することで、学習を家庭生活でも生かしていけるような学習サイクルを作る。 ・既習事項の確認を丁寧に行い、昨年度学習したこととのつながりに気付かせてから、学習を発展させる。 ・学習したことを家庭で実践したり、実際に調理実習で学んだことを生かして料理をしたりなどのお手伝いを通して、家庭生活中で生かせるような学習のサイクルを考え、家族の一員としての実践力を身に付けさせる。

体育	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・心と体を一体として捉え、適切な運動の経験と健康・安全についての	・校庭が工事中のため、児童が運動する場所が限られるので、屋上校庭、体育館、講堂で意図的	・休み時間に体全体を使う遊びの敢行、体力向上タイム(短・長縄跳び)、体育的行事を通して、日常から運動に取り組むことがで

	理解を通して、障害にわたって運動に親しむ資質や能力を育む。 ・健康の保持増進と体力向上を目指し、主体的に取り組む力を養う。	に運動する機会を作り、児童が主体的に運動に取り組めるようにする。 ・体力調査では、全国平均よりも良い記録は多いものの、学年によって、「握力」「20m シャトルラン」「長座体前屈」が平均を下回っている。	きる環境を整える。 ・ボルダリングを活用して、筋力を鍛えたり、仲間と協力して運動したりする機会を設ける。 ・ICT 機器やワークシートを活用して、動きのポイントを確かめたり、複線型授業を設定する等、主体的に取り組める工夫を考える。
--	--	---	---

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	・アクティビティや学習で学んだ表現を理解している児童は多いが、それらを自ら考え使うことは難しい児童が多い。また、主体的にコミュニケーションを図ったり伝えたりする意欲や表現力には差が見られる。	・学習した表現を日常的に活用できるよう、少人数でコミュニケーションを設定する場を設ける。 ・自分の技能に応じて安心してスピーチの練習ができるよう複線型の授業を取り入れ、自分の課題によって練習する方法を見付け、自信をもって人前で話せるように力を高めていく。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・自己を見つめ、物事を多面的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力・実践力を育む。	・資料の読み取りになってしまう児童が複数名いる。自分事として内容を捉え、考えられるようにしたい。 ・意欲的に発表する力はあるが、一方的な発表になってしまう。友達の意見を聞くことに課題がある児童もいるため、友達の意見を聞いて考えを深めることに課題がある。	・導入や展開を工夫して、資料を自分事として捉えることができるようにしていく。 ・意見交流や対話的な活動を取り入れ、お互いの考えの違うところや同じところや価値観を共有し、よりよい自分の姿を考えられるようにする。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・多様な他者と関わる集団の中で、人間関係をよりよいものにしたり、自己の課題を発見し改善して、よりよい生き方を追求していこうとしたりする資質・能力を養う。	・当番活動や係活動を通して集団の関わりをよりよいものにしていこうとする児童は多いが、振り返りや改善の機会が十分ではない。 ・話し合いで多様な意見を認め合い、よさを生かし合いながら考え、伝え合い、合意形成することが難しい。	・振り返りや改善の場を設け、次につながる活動の場を設定していく。当番活動や係活動だけでなく、学校行事においても実践できるようにワークシートや振り返りカードなどを活用していく。 ・実際に話し合いを行っている途中で賞賛したり、必要な助言を行ったりすることで、どうすれば効果的に合意形成を図ることができるのかを実践的に理解できるようにする。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。	・課題の設定（更新）の場面において、問題状況をよく吟味したり解決の見通しをもったりしながら課題を設定することができていない。また、整理、分析し解決することができていない。	・課題の設定（更新）や整理・分析の場面において、思考ツールを積極的に活用し、問題状況や収集した情報を吟味する学習活動を設定する。 ・単元全体として目的や必要感をもって学習に取り組むことができるよう、次年度に向けてカリキュラムの見直しを行っていく。